

地域博物館を考える（1）－調査・研究と普及活動－

Consider of the regional museum 1 : Research study and popularization activities

石原 正敏¹

ISHIHARA Masatoshi

新しい十日町市博物館（以下、「新博物館」）は、令和2（2020）年6月に開館した。新博物館の基本理念は、「市民・来館者と共に考え、活動し、成長する博物館」である。十日町市の多様で豊かな自然と歴史・文化について、市民・来館者と共に探求し、保全・継承し、その価値を国内外に発信することをビジョンとしている。新博物館は生涯学習の拠点であるとともに、情報発信の拠点という機能を有し、4つの使命を掲げて活動している。

本稿では、旧博物館開館までの経緯や博物館と文化財課の30数年の関わりについてふれ、資料の収集、整理、保管（収蔵）、調査、研究、文化財指定や保存・活用について紹介するとともに、地域博物館の現状と課題について考察する。博物館活動においては「調査研究」、「情報発信と公開」が喫緊の課題であり、文化財の指定及び保存と活用においても、多くの課題がある。それらを踏まえ、課題解決に向け、新たな方向性を見出していく必要がある。

1. はじめに

十日町市博物館は、昭和54（1979）年の開館以来、「妻有地方の自然と文化」をテーマに、基本理念に掲げた「市民生活に密着した実物教育機関として、いつでも誰でも見たり、調べたりできる、市民のための博物館」を目指して様々な活動を展開してきた（波形1994、竹内2002ほか）。友の会活動など地域に密着した博物館活動を着実に展開している点が評価され、平成3（1991）年に文部省が推薦した全国の特徴ある博物館24館の1つにも選ばれている。

そして、平成26（2014）年から準備を始め開館41年目となる令和2（2020）年6月に新しい十日町市博物館（以下、「新博物館」）がオープンした。新博物館の基本理念は、「市民・来館者と共に考え、活動し、成長する博物館」である。十日町市の多様で豊かな自然と歴史・文化について、市民・来館者と共に探

求し、保全・継承し、その価値を国内外に発信することをビジョンとしている。新博物館は生涯学習の拠点であるとともに、情報発信の拠点という機能を有する。「市民の知的関心に応えるため、資料や情報を収集・保存、調査・研究、展示・普及し、生涯学習の拠点としてその役割を果たす」、「地域の歴史や文化に対する市民の理解を深め、市民と共に新しい価値を創造する」、「魅力ある財産として地域固有の歴史・生活文化・産業に光をあて、その活用を通じた来館者との交流により地域振興に貢献する」、「市民及び来館者と対話しながら共に成長し、博物館友の会、他の博物館・関係機関と連携して活動する」の4つの使命を掲げて活動している。

前々稿では、旧博物館における40年の活動の歩みを振り返り、耐震改修・展示リニューアルから新博物館の建設への方向転換、新博物館の展示の特徴、開館

1 十日町市博物館 〒948-0072 新潟県十日町市西本町一丁目448番地9

後およそ1年半の運営にあたって留意したことなどについて紹介した。合わせて、雪文化三館提携や信濃川火焰街道連携協議会など広域連携や地域連携の取り組み、文化資源の魅力増進の取り組みなどについて紹介するとともに、今後の課題等について考察した（石原2022）。前稿では、資料の収集・整理・保管、調査研究活動、実物資料・写真資料など資料の貸出、博物館実習・職場体験、史跡の保存と活用などについて紹介するとともに、現状と課題について考察した（石原2023）。しかし、調査研究活動における文化財課と博物館の関係性、文化財課の文化財保護と埋蔵文化財の関係性などについては、取り上げることができなかった。本稿では、旧博物館開館までの経緯や博物館と文化財課の関わりについてふれ、新博物館開館後のおおよそ4年間を振り返るとともに、関係データを再整理し、地域博物館の現状と課題について考察する。

2. 資料の収集・整理と調査研究について

（1）博物館と文化財課の機能

「博物館ハ世界中ノ物産、古物、珍物ヲ集メテ人ニ示シ、見聞ヲ博クスルヲメニ設ケルモノナリ」これは、福澤諭吉が「西洋事情」で記した一節である。福澤は1862年に遣欧使節団の一員としてフランス、イギリス、オランダ等を視察し、わが国に「博物館」の意味を初めて伝えたと言われている。「集メテ（＝収集）人ニ示シ（＝展示）、見聞ヲ博クスル（＝教育）」という表現は正に的を射ている。

博物館法の第1章第2条で、「博物館」は「歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管し、展示して、教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関」と定義されている。博物館を教育機関とする所以はここにあり、この教育的配慮が現在の博物館事業の根底にある。一方、教育機関としてのあり方とは別に、博物館法において博物館は研究機関であると規定されている。博物館法の第3条第1項には、その四に博物館の事業として「博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと」を掲げ、博物館の調査研究の重要性を述べている。この専門的な調査研究の担い手は学芸員であ

る。学芸員については、博物館法第4条第3項に、博物館の専門的職員としての学芸員の位置付けが規定され、同第4項には「学芸員は、資料の収集、保管、展示及び調査研究をはじめ専門的事項をつかさどる」として、博物館の専門的な調査研究が主として学芸員に委ねられていることが明記されている。

文部科学省は、「社会教育行政に必要な社会教育に関する基本的事項を明らかにすること」を目的とし、3年ごとに社会教育調査を実施している。直近の2021（令和3）年度調査結果では、博物館数（博物館登録施設、相当施設、類似施設）は5,771館（2018年度調査では5,738館）であった。全国では1市町村に平均3.3館の博物館があることになる。学芸員数は9,036人（2018年度調査は8,403人）であった。前回調査から数は増加しているが、正規職員の割合が減少し、非正規職員の割合が増加傾向にある。

博物館には、いわゆる「表の顔と裏の顔」がある。資料の収集、整理、保管（収蔵）、調査、研究という仕事は裏の顔であり、展示や教育普及などが表の顔である。新博物館においては、文化財課と博物館という2つの組織が、車の両輪のごとく日々の業務に取り組んでおり、調査研究活動の多くを文化財課が担っている（石原2023）。

（2）十日町市博物館の開館

十日町市の文化財行政は当初、社会教育課が担当していた。昭和34（1959）年の小坂遺跡の発掘調査はもとより、民具の収集なども社会教育課で担当していた。昭和40年代に入って社会教育課では、このまま放置しておくとも民具がなくなってしまうと考え、小中学校を通して民具の収集を開始し、昭和45（1970）年には民具展が市民体育館を会場に開催された。神宮寺「本尊・木造十一面千手観音立像」の新潟県文化財指定が契機となり、文化財保護の機運が高まり、昭和47（1972）年4月には旧条例を全文改正して新たな十日町市文化財保護条例が施行された。その後、昭和48（1973）年から昭和53（1978）年まで、立教大学の学校・社会教育講座学芸員課程の協力を得て、「十日町市における文化財の調査」が行われ、昭和49（1974）年から昭和51（1976）年には「十日町市広域パイロット地域内の遺跡群調査」が実施された。昭和47（1972）年に市総合計画の中に郷土資料館建設

の構想が打ち出され、その後に行われた県内屈指の古代集落遺跡（馬場上遺跡）の発掘調査を契機として、にわかに収蔵・展示施設整備の機運が高まった。そして、昭和49（1974）年11月に文化財調査審議会が教育委員会に対し、収蔵施設と公開できる施設（資料館）を早急に建設するよう建議書を提出した。旧博物館は翌50（1975）年から約4年間の準備期間を経て開館の運びとなったが、この建議書が昭和51（1976）年の埋蔵文化財収蔵庫建設、昭和53（1978）年の博物館建設、昭和54（1979）年の博物館開館へと繋がった。

（3）文化財課の設置とその歩み

旧博物館が開館した昭和54（1979）年からしばらくの間、文化財担当は社会教育課、発掘関係は博物館と、担当部署が行政組織と教育機関に分かれて不便をきたしていた。発掘調査事業の増大等に対応するため、昭和62（1987）年4月より社会教育課に文化財係が設置されたが、実体は文化財関連業務を全て博物館に移し、考古学専攻の学芸員を増員したものであった。しかも、辞令は社会教育課文化財係で、係長は博物館副館長の兼務でありながら、博物館長とは別の社会教育課長の下に属す、また、職員も文化財係の実務は博物館で行いながら、社会教育課文化財係として、兼務の博物館職員とは違う決裁区分に属するという、依然として変則的な組織であった。その後、行政の体制整備が叫ばれ、博物館の整備を含め文化・文化財行政が見直されて、3年後の平成2（1990）年4月に文化財課が誕生した。以来、文化財担当部門は社会教育課を離れて独立し、文化財課の職員として博物館職員を兼務し、文化財に関する業務全般にあたっている。文化財課の歩みは、別表のとおりである（第1表～第4表）。

平成17（1995）年の市町村合併により新十日町市が誕生して間もなく20年が経過する。文化財課は「地域文化の向上に資するため、文化財の調査、研究、保存、管理をはかること」を課の方針とし、文化財係は平成24（2012）年に文化財保護係と埋蔵文化財係の2係に分離され、現在に至っている。文化財課は主に(1)文化財保護調査事業、(2)文化財保存修理事業、(3)古文書等歴史資料整理事業、(4)遺跡発掘調査事業、(5)埋蔵文化財等調査報告書作成事業、(6)火焰の都整備事業、(7)資料館等維持管理事業などに取り組んでいる。(1)～(3)、(7)を文化財保護係、(4)～(6)を埋蔵文化

財係がそれぞれ分掌している。発掘調査一覧は別表のとおりである（第5表～第7表）。

（3）調査研究と文化財指定

重要有形民俗文化財「越後縮の紡織用具及び関連資料2,098点」（昭和61年3月指定）、同「十日町の積雪期用具3,868点」（平成3年1月指定）、火焰型・王冠型土器群をはじめとする国宝「新潟県笹山遺跡出土深鉢形土器57点（附871点）」（平成11年6月指定）は、関係者の不断の努力によって生み出されたものである。

旧博物館においては、開館準備段階から収集・保存してきた越後縮関連資料をより充実し、きちんと整理して後世に伝えとともに、国の文化財指定を受けようと本格的作業に入ったのは、昭和57（1982）年度からであったという。文化庁の天野主任文化財調査官などの指導を得ながら整理が進められた。「調査、写真撮影、計測、作図、台帳作成と、1点ずつの大変手間のかかる作業であったが、職員だけでは手が足りず、臨時職員やパートを頼み、4年がかりで2,098点のコレクションを完成させた。当初、集まった資料の中には修復を要するもの、用途不明のものなどがあり、その都度、確認作業や調査で苦労したことも度々であった。技術的に不明の点は、松之山や小千谷・塩沢などへ飛んで現地調査を行ったほか、“縮織り”の周辺を固めるために大勢のお年寄りから聞き取り調査を行ってきた」と、当時の職員が熱く語っていたことが思い出される。昭和62（1987）年度からは、引き続き十日町の雪に関する民俗資料の整理に入った。約5年の歳月をかけ、3,868点という膨大な資料を分類・整理し、重要有形民俗文化財の指定を受けることができた。この2つのコレクションは、数多くの市民の皆さんをはじめとする関係者、関係団体のご協力で出来上がったものであることを忘れてはいけないだろう。また、旧博物館の展示解説書もこの時期に作成されている（十日町市博物館編1981・1982・1983・1984・1987）。当時の関係者のご尽力に敬意を表する次第である。

笹山遺跡出土品は、発掘調査後の数年にわたる整理作業、調査研究などを経て、昭和61（1986）年秋に展示公開され、平成2（1990）年2月に市の文化財指定、翌3（1991）年3月に県の文化財指定、そし

て翌4（1992）年6月に国の重要文化財指定と、異例の速さで文化財指定の階段を昇りつめた。笹山遺跡出土品が注目される中、市では平成9（1997）年度から発掘調査と整理調査を並行して行う体制を組み、その時点でまだ調査報告書を刊行していなかった遺跡の中から、火焰型土器などの重要文化財を保有する笹山遺跡を選び、調査報告書作成を開始した。整理調査には専従職員2名と臨時職員2名が配置され、限られた期間のため(1)実測図・表などを多用し客観的なデータの提示に努める、(2)考察編は掲載しない、(3)図・写真は必要なものだけにとどめ文章・図版ともにコンパクトにまとめるなどの編集方針に基づき作業を進め、平成10（1998）年9月末に調査報告書を計画通り刊行した。こうした経過を経て、翌11（1999）年6月に笹山遺跡出土品928点が国宝に指定された。県内初の国宝の誕生であり、縄文土器として国内初の指定という快挙となった（石原2018）。

考古資料においては、県指定の「伊達八幡館跡出土品」（281点、平成20年指定）、「久保寺南遺跡出土品」（309点、平成22年指定）、「野首遺跡出土品」（1,290点、平成2年指定）はもとより、市指定の「馬場上遺跡出土品」（一括、平成2年指定）、「伊達八幡館跡出土品」（県指定分を除く一括、平成11年指定）、「幅上遺跡出土品」（一括、平成12年指定）、「干溝遺跡出土隆起線文土器」（1点、平成24年指定）、「中島遺跡出土の縄文土器」（78点、平成27年指定）、「樽沢開田遺跡出土品」（98点、平成28年指定）、「田沢遺跡出土品」（152点、平成30年指定）についても、調査研究の大きな成果といえるだろう。

3. 調査研究と普及活動

（1）展示事業と教育普及活動

旧博物館においては「妻有地方という地域社会を対象とし、郷土の特性である、雪と織物と信濃川を基本に特色ある博物館づくりを目指す」、「市民生活に密着した実物教育機関として、地域文化創造の中心となり、学術文化の振興に努める」、「各種博物館資料の収集、保存、調査、研究と展示を中心とした、教育普及活動の機能を有し、いつでも、誰でも、見たり、調べたりできる地域情報センターの役割を果たす」の3つの基本方針のもとに活動を行ってきた。開館以来、こ

れまでに開催された企画展・特別展は別表のとおりである（第8表～第9表）。新博物館の展示事業には企画展、特別展、特設展示のほか、まちの文化歴史コーナーHAKKAKEの展示などがある。企画展、特別展では常設展で表現できない部分を補うとともに、地域の歴史や文化にとって重要なテーマを選んで年数回開催している。博物館にとって生命線であり、調査研究に裏打ちされたものでなければ「意味」がなく、「深み」のないものになることは改めて言うまでもない。教育普及事業には博物館講座、古文書入門講座、子ども博物館、縄文体験などがある。博物館講座は市民対象であるが、遠来の参加者も増えている。古文書入門講座は古文書解読の初心者を対象としたもので、市内の史料をテキストにして古文書に親しむとともに郷土の歴史を学ぶことを目的としている。子ども博物館は市内の小学4～6年生対象の体験教室である。企画展・特別展では、美術展の開催などが今後の課題と思われる。

（2）古文書等歴史資料関係

文化財課文化財保護係では、古文書等歴史資料の調査・研究に継続的に取り組んでいる。平成24（2012）年度より十日町情報館が指定管理になったことに伴う組織改編により、古文書等歴史資料に関わる事業が文化財課文化財保護係へと移管された。(1)山内景行家写真資料の整理・活用、(2)蕪木元昭家文書（加賀屋文書）の調査・研究、(3)古文書等歴史資料の収集・整理の3つで構成され、これらは全て移管前からの継続事業である。

（1）山内景行家写真資料の整理・活用

新潟県中越地震での被災を機に、明治から100年の歴史を持つ「旧・山内写真館」の所蔵写真約48,000カットが十日町市に寄託された。これを受けて平成22（2010）年10月から、十日町市古文書整理ボランティアと十日町情報館が協働して、写真を活用できるようにするため、写真1点1点の内容情報（時代・場所・状況など）を調査し、写真資料カードに記録する作業に取り組んできた。平成24（2012）年3月までの第1期・第2期整理作業の結果、約4,000枚の資料カードが記入されている。平成24（2012）年度より文化財課が主管となり、令和5（2023）年度は第14期整理作業が行われている。

写真整理作業の成果を公開し、さらなる情報収集を図るため、写真展を開催しており、令和5（2023）年度で第15回目となる。また、旧・山内写真館資料48,000点のうち3,047点の写真画像が、国の取組みである「ジャパンサーチ」に掲載され、令和3（2021）年9月から誰でも気軽に検索・閲覧ができるようになった。

(2) 蕪木元昭家文書（加賀屋文書）の調査研究

新潟県中越大地震で被災し、十日町市に寄託された62,000点の蕪木元昭家（縮問屋加賀屋）の歴史資料整理保存作業は、3年の歳月をかけて十日町情報館と市民ボランティアが共同して実施し、平成19（2007）年11月に歴史資料目録全8巻がまとめられ、研究活用の基盤が整えられた。そこで、資料群の全体的な内容解明と理解を深める中核的な人材育成を図り、あわせて資料研究と活用のさらなる素地づくりを進めるため、平成20（2008）年6月、加賀屋文書研究会が設立された。研究会は月1回のペースで開催され、令和2（2020）年11月に第130回研究会が開催されている。

(3) 古文書等歴史資料の整理

十日町市への寄託・寄贈資料のうち、古文書等歴史資料については、燻蒸後、情報館収蔵庫に保管し、整理作業を行ってきた。令和元（2019）年度には、古文書等歴史資料を十日町情報館から旧博物館に移動し、新博物館開館後は2階の研究室で整理作業を行っている。

(4) 国宝など実物資料の貸出

前稿（石原2023）でも触れたように、平成4（1992）年に重文・火焰型土器No1が「日本の古代展」（アメリカ ワシントンD.C.、アーサー・サックラー美術館）へ出品された。その後、平成10（1998）年には重文・火焰型土器No1が「縄文展」（フランス パリ、日本文化会館）に、平成13（2001）年には国宝・火焰型土器No1・6が「古代日本の聖なる美術展」（イギリス ロンドン、大英博物館）に、平成22（2010）年には国宝・火焰型土器No6が「日本の美 5000年」（トルコ イスタンブール、トプカプ宮殿博物館）に、平成30（2018）年には、国宝・火焰型土器No1が「縄

文ー日本における美の誕生ー」（フランス パリ、日本文化会館）に出品された。これら資料貸出は、博物館の重要な機能の一つであり、国宝の貸出実績については、次の文献をご参照願いたい（十日町市博物館編2020a）。

4. おわりに

縁あって十日町市博物館に就職し、間もなく40年が経とうとしている。笹山遺跡をはじめ幅上遺跡、樽沢開田遺跡など200を超える遺跡の発掘調査、整理調査、普及啓発に携わる機会を得た。笹山遺跡出土品の重要文化財指定や国宝指定に関わることができたのも幸いなことであった。

これまでの間に、阿部恭平、阿部敬、今井哲哉、小熊博史、小野昭、貝瀬香、笠井洋祐、川村知行、木村英祐、久保禎子、小林隆幸、小林達雄、小林徳、佐々木栄一、佐藤信之、佐藤雅一、眞田岳彦、菅沼亘、竹内俊道、高木公輔、高橋由美子、立木宏明、角田由美子、中村由克、新田康則、橋本博文、原田昌幸、林真子、平山育夫、廣野耕造、古澤妥史、星野元一、松村実、宮尾亨、山田正毅の各氏をはじめ、多くの方々よりご教示をいただいた。また、故人となられたが、甘粕健、石澤寅義、今福利恵、大島伊一、岡田稔、上村政基、小島俊彰、小林宏行、佐野良吉、島田靖久、須藤重夫、関雅之、高橋洋一、滝沢秀一、田村達夫、土肥孝、戸田哲也、冨澤孝之、中澤幸男、波形卯二、樋熊清治、廣田永二、藤本強、丸山克己の各氏から種々ご教示をいただいた。文末ではあるが記して厚くお礼申し上げる。

なお、紙数に限りがあるため調査研究活動における市史編さん事業（昭和60年度～平成8年度）、歴史文化基本構想策定事業（平成27年度～29年度）、文化財保存活用地域計画策定事業（令和4年度～6年度）などの成果と地域博物館の関わりについては稿を改めて検討の機会をもちたい。また、文化財調査報告書（Ⅰ～Ⅶ）、文化財課年報（1～17号）、遺跡発掘調査報告書（1～75集）をはじめ引用・参考文献の多くを割愛した。お許しいただきたい。（2024年3月10日脱稿）

引用・参考文献

石原正敏 2010「豪雪地帯に生まれた文化－火焰土器の世界－」『知って
おきたい新潟県の歴史』新潟日報事業社

石原正敏 2015「「火焰型土器のクニ」から－笹山遺跡の土器、土製品
や石器類」『東北学』05、はる書房

石原正敏 2018『国宝「火焰型土器」の世界 笹山遺跡』新泉社

石原正敏 2022「ミュージアム・マネジメントの実践（1）－新十日
町市博物館の取り組み－」『十日町市博物館研究紀要』第1号

石原正敏 2023「ミュージアム・マネジメントの実践（2）－新十日
町市博物館の取り組み－」『十日町市博物館研究紀要』第2号

佐野良吉 1982『随想妻有郷－十日町地方の歴史と民俗－』国書刊行
会

佐野良吉 1990『妻有郷の歴史散歩』国書刊行会

竹内俊道 2002「地域に根ざした博物館活動を目指して」『博物館研究』
第37巻第6号 日本博物館協会

波形卯二 1994「博物館案内 十日町市博物館」『考古学ジャーナル』
372 ニュー・サイエンス社

十日町市博物館 編 1981『十日町市博物館常設展示解説書1 雪』

十日町市博物館 編 1982『十日町市博物館常設展示解説書2 信濃
川』

十日町市博物館 編 1983『十日町市博物館常設展示解説書3 織物
生産工程』

十日町市博物館 編 1984『十日町市博物館常設展示解説書4 織物
歴史』

十日町市博物館 編 1987『十日町市博物館常設展示解説書別冊 民
家』

十日町市博物館 編 1987『図録 妻有の女衆と縮織り』

十日町市博物館 編 1988『ガイドブック 十日町市の遺跡』

十日町市博物館 編 1992『雪国十日町の暮らしと民具』

十日町市博物館 編 1994『図説 越後アンギン』

十日町市博物館 編 1996a『縄文の美－火焰土器の系譜－』

十日町市博物館 編 1996b『火焰土器研究の新視点』

十日町市博物館 編 2000『火焰型土器をめぐる諸問題－笹山遺跡の
謎に迫る－』

十日町市博物館 編 2015『十日町市博物館 年報 第1号』

十日町市博物館 編 2016『十日町市博物館 年報 第2号』

十日町市博物館 編 2017『十日町市博物館 年報 第3号』

十日町市博物館 編 2018『十日町市博物館 年報 第4号』

十日町市博物館 編 2019『十日町市博物館 年報 第5号』

十日町市博物館 編 2020a『国宝 笹山遺跡出土品のすべて（改訂版）』

十日町市博物館 編 2020b『十日町市博物館 要覧』

十日町市博物館 編 2020c『十日町市博物館 年報 第6号』

十日町市博物館 編 2020d『縄文の遺産－雪降る縄文と星降る縄文の
競演－』

十日町市博物館 編 2021a『常設展示案内ガイド』

十日町市博物館 編 2021b『十日町市博物館 年報 第7号』

十日町市博物館 編 2021c『岡本太郎が見て、撮った縄文』

十日町市博物館 編 2022a『十日町市博物館 年報 第8号』

十日町市博物館 編 2022b『里山の石仏－松之山の祈りと信仰－』

十日町市博物館 編 2022c『縄文時代の始まりを探る』

十日町市博物館 編 2023a『十日町市博物館 年報 第9号』

十日町市博物館 編 2023b『笑う縄文人－縄文人の喜怒哀楽－』

十日町市博物館・十日町市博物館友の会 編 1999『十日町市博物館
開館・博物館友の会設立20周年記念誌 国宝のまち モノが語る
博物館』十日町市博物館・十日町市博物館友の会

十日町市博物館・十日町市博物館友の会 編 2009『十日町市博物館

開館・博物館友の会設立30周年記念誌 モノが語る博物館』十日
町市博物館・十日町市博物館友の会

十日町市博物館友の会妻有のいしづみ編集委員会 編 1997『妻有の
いしづみ』十日町市博物館友の会

十日町市博物館友の会古文書研究グループ 編 2014『三十五周年記
念誌 古文書に学ぶ』

十日町市博物館友の会松代のいしづみ編集委員会 編 2016『松代の
いしづみ』十日町市博物館友の会

十日町市教育委員会 編 2016『ささやまの耳－笹山遺跡第8～10
次調査成果概要－』

十日町市教育委員会文化財課 編 2018『十日町市歴史文化基本構想』
新潟県十日町市

十日町市教育委員会 編 2022『田沢・壬遺跡保存活用計画』新潟県
十日町市

十日町市博物館・鈴木牧之記念館・トミオカホワイテ美術館 編
2002『雪文化三館提携10周年記念企画 北越雪譜と魚沼の風土』
十日町市博物館友の会

第1表 文化財課の歩み(1) (平成2年度～平成11年度)

年度	予算・人員・出来事など					
平成2年度 (1990)	当初予算額	24,460千円	補正額	3,820千円	決算額	28,068千円
	不用額	212千円	繰越額	0千円	備考	
	職員	星野元一、斉木仁、阿部恭平、竹内俊道、樋口克子、石原正敏、高橋由美子、河合順之(8月～)、(補助員)山田敏枝・上野洋子・中沢仁・宇都宮滋美				
	出来事	文化財課の新設(4.1)、幅上遺跡の発掘調査、大井田城跡に説明板設置				
平成3年度 (1991)	当初予算額	32,823千円	補正額	6,860千円	決算額	39,456千円
	不用額	227千円	繰越額	0千円	備考	
	職員	星野元一、斉木仁、阿部恭平、竹内俊道、樋口克子、石原正敏、高橋由美子、河合順之(～5月)、(臨時職員)山田敏枝・上野洋子・遠田芳子・吉沢順子				
	出来事	十日町の積雪期用具の重文指定(4.19)、リゾート関連遺跡調査の委託契約締結(～平成8年度)、神宮寺に説明板設置				
平成4年度 (1992)	当初予算額	37,778千円	補正額	2,681千円	決算額	40,224千円
	不用額	256千円	繰越額	0千円	備考	
	職員	波形卯二、斉木仁、阿部恭平、竹内俊道、樋口克子、石原正敏、高橋由美子、菅沼亘、星野奈美、(臨時職員)山田敏枝・上野洋子・遠田芳子・吉沢順子				
	出来事	重要文化財・火焰型土器のワシントン・アーサー・サックラー美術館への出陳、大井久保遺跡・ぼんのう遺跡の発掘調査、鉢の石仏に説明板設置				
平成5年度 (1993)	当初予算額	27,255千円	補正額	14,390千円	決算額	41,389千円
	不用額	256千円	繰越額	0千円	備考	
	職員	波形卯二、熊木剛、阿部恭平、竹内俊道、樋口克子、石原正敏、高橋由美子、菅沼亘、星野奈美、(臨時職員)山田敏枝・上野洋子・吉沢順子				
	出来事	大黒沢正平在銘梵字碑と姿箭神社の大ケヤキに説明板設置				
平成6年度 (1994)	当初予算額	24,206千円	補正額	1,053千円	決算額	25,156千円
	不用額	103千円	繰越額	0千円	備考	
	職員	波形卯二、熊木剛、阿部恭平、竹内俊道、樋口克子、石原正敏、高橋由美子、菅沼亘、星野奈美、(臨時職員)山田敏枝・上野洋子				
	出来事	大沢遺跡・城之古遺跡の発掘調査、高龍神社社叢に説明板設置、博物館開館・友の会設立15周年				
平成7年度 (1995)	当初予算額	35,197千円	補正額	△4,746千円	決算額	29,911千円
	不用額	539千円	繰越額	0千円	備考	
	職員	波形卯二、熊木剛、阿部恭平、庭山敏子、竹内俊道、石原正敏、菅沼亘、太田喜重、星野奈美、(臨時職員)山田敏枝・上野洋子				
	出来事	安養寺松尾神社の大スギ・円通庵の三本スギに説明板設置				
平成8年度 (1996)	当初予算額	90,334千円	補正額	△19,360千円	決算額	67,104千円
	不用額	3,870千円	繰越額	0千円	備考	
	職員	波形卯二、熊木剛、阿部恭平、庭山敏子、竹内俊道、角山誠一、石原正敏、菅沼亘、太田喜重、(臨時職員)山田敏枝・上野洋子、(補助員)吉楽勝弥				
	出来事	野首遺跡・島A遺跡・なんぜん萱場遺跡の発掘調査、笹山遺跡に説明板設置				
平成9年度 (1997)	当初予算額	75,599千円	補正額	4,276千円	決算額	77,673千円
	不用額	2,202千円	繰越額	0千円	備考	
	職員	風間栄光、阿部恭平、高橋アキ、庭山敏子、竹内俊道、角山誠一、石原正敏、菅沼亘、太田喜重、(臨時職員)山田敏枝・上野洋子、(補助員)吉楽勝弥				
	出来事	寿久保遺跡・つつじ原C遺跡の発掘調査、観泉院山門に説明板設置				
平成10年度 (1998)	当初予算額	23,004千円	補正額	7,786千円	決算額	30,407千円
	不用額	383千円	繰越額	0千円	備考	
	職員	風間栄光、丸山克巳、阿部恭平、高橋トシ子、高橋アキ、角山誠一、石原正敏、菅沼亘、太田喜重、村山恵美子、(臨時職員)山田敏枝・上野洋子、(補助員)吉楽勝弥				
	出来事	『笹山遺跡発掘調査報告書』の刊行、智泉寺山門に説明板設置、重要文化財・火焰型土器のバリ日本文化会館への出陳				
平成11年度 (1999)	当初予算額	38,400千円	補正額	△1,490千円	決算額	35,397千円
	不用額	1,513千円	繰越額	0千円	備考	
	職員	山田正毅、阿部恭平、高橋トシ子、高橋アキ、村竹修、石原正敏、菅沼亘、太田喜重、村山恵美子、(臨時職員)山田敏枝・上野洋子、(補助員)吉楽勝弥				
	出来事	笹山遺跡出土品の国宝指定(6.7)、谷内A遺跡・中新田A遺跡などの発掘調査、羽川城跡に説明板設置、博物館開館・友の会設立20周年				

第2表 文化財課の歩み(2) (平成12年度～平成21年度)

年度	予算・人員・出来事など					
平成12年度 (2000)	当初予算額	30,928千円	補正額	△9,296千円	決算額	20,680千円
	不用額	952千円	繰越額	0千円	備考	
	職員	山田正毅、阿部恭平、高橋アキ、竹内俊道、村竹修、石原正敏、菅沼亘、太田喜重、岩田恵美子、(臨時)山田敏枝・上野洋子、(補助員)根津恵・宮内信雄				
	出来事	道端A遺跡・道下南遺跡の発掘調査、入山のカスミザクラに説明板設置				
平成13年度 (2001)	当初予算額	19,233千円	補正額	1千円	決算額	18,880千円
	不用額	354千円	繰越額	0千円	備考	
	職員	山田正毅、竹内俊道、高橋アキ、村竹修、菅沼亘、太田喜重、岩田恵美子、林真子、(嘱託)阿部恭平、(臨時)山田敏枝・上野洋子、(補助員)根津恵				
	出来事	国宝・火焰型土器の大英博物館への出陳、狐城跡の発掘調査				
平成14年度 (2002)	当初予算額	28,122千円	補正額	△3,366千円	決算額	24,316千円
	不用額	440千円	繰越額	0千円	備考	
	職員	上村松雄、竹内俊道、菅沼亘、太田喜重、岩田恵美子、林真子、富井寛人、(嘱託)阿部恭平、(臨時)山田敏枝・上野洋子、(補助員)高橋桂子				
	出来事	水沢館跡の発掘調査、『馬場上遺跡発掘調査報告書』の刊行				
平成15年度 (2003)	当初予算額	32,640千円	補正額	△8,100千円	決算額	23,819千円
	不用額	721千円	繰越額	0千円	備考	
	職員	上村松雄、竹内俊道、石原正敏、菅沼亘、岩田恵美子、林真子、富井寛人、(嘱託)阿部恭平、(臨時)山田敏枝・上野洋子				
	出来事	江道A遺跡の発掘調査				
平成16年度 (2004)	当初予算額	30,625千円	補正額	△2,189千円	決算額	24,188千円
	不用額	4,248千円	繰越額	0千円	備考	
	職員	小林宏行、竹内俊道、石原正敏、菅沼亘、富井寛人、阿部美紀、(嘱託)阿部恭平、(臨時)山田敏枝、(補助員)上野洋子・宮内信雄				
	出来事	江道B・C遺跡の発掘調査、『伊達八幡館跡発掘調査報告書』の刊行、博物館開館・友の会設立25周年				
平成17年度 (2005)	当初予算額	46,948千円	補正額	2,537千円	決算額	49,485千円
	不用額	●千円	繰越額	6,490千円	備考	
	職員	小林宏行、竹内俊道、水落辰美、石原正敏、菅沼亘、笠井洋祐、大見好行、阿部美紀、(嘱託)阿部恭平、(臨時)山田敏枝、(補助員)上野洋子・宮内信雄・板橋恭子				
	出来事	市町村合併(4.1)、星名家住宅保存修理事業、上ノ山開墾地遺跡の発掘調査				
平成18年度 (1996)	当初予算額	48,186千円	補正額	△8,858千円	決算額	38,347千円
	不用額	981千円	繰越額	0千円	備考	
	職員	小林宏行、竹内俊道、水落辰美、石原正敏、菅沼亘、福原真由美、笠井洋祐、大見好行、(嘱託)阿部恭平、(臨時)山田敏枝、(補助員)上野洋子・宮内信雄				
	出来事	市指定文化財の見直し答申、『幅上遺跡発掘調査報告書』の刊行				
平成19年度 (2007)	当初予算額	187,819千円	補正額	19,200千円	決算額	122,943千円
	不用額	1,850千円	繰越額	82,300千円	備考	
	職員	小林宏行、竹内俊道、水落辰美、石原正敏、菅沼亘、笠井洋祐、大見好行、吉澤真由美、(嘱託)宮内信雄、(臨時)斎藤浩俊、(補助員)上野洋子・角山誠一				
	出来事	松代郷土資料館移転改修事業、伊達八幡館跡出土品の県文化財指定				
平成20年度 (2008)	当初予算額	209,309千円	補正額	6,501千円	決算額	284,222千円
	不用額	3,092千円	繰越額	10,796千円	備考	
	職員	竹内俊道、長津政勝、水落辰美、石原正敏、菅沼亘、笠井洋祐、大見好行、吉澤真由美、(嘱託)宮内信雄、(補助員)上野洋子・角山誠一				
	出来事	松代郷土資料館移転改修事業完了、上屋敷遺跡の発掘調査				
平成21年度 (2009)	当初予算額	73,197千円	補正額	10,428千円	決算額	90,759千円
	不用額	3,663千円	繰越額	0千円	備考	
	職員	竹内俊道、長津政勝、水落辰美、石原正敏、菅沼亘、笠井洋祐、吉澤真由美、小市知子、(嘱託)宮内信雄、(補助員)上野洋子・角山誠一・富澤孝之				
	出来事	樽沢開田遺跡の発掘調査、久保寺南遺跡出土品の県文化財指定、博物館開館・友の会設立30周年				

第3表 文化財課の歩み(3) (平成22年度～平成29年度)

年度	予算・人員・出来事など					
平成22年度 (2010)	当初予算額	55,821千円	補正額	22,688千円	決算額	62,909千円
	不用額	1,104千円	繰越額	14,460千円	備考	
	職員	平野勝、長津政勝、水落辰美、石原正敏、菅沼亘、太田喜重、笠井洋祐、小市知子、(嘱託)宮内信雄、(補助員)上野洋子・角山誠一・斎藤浩俊・富澤孝之				
	出来事	清津宮峯遺跡の発掘調査、国宝・火焰型土器のイスタンブール・トプカプ宮殿博物館への出陳、重要文化財・星名家住宅の保存修理事業完了				
平成23年度 (2011)	当初予算額	85,709千円	補正額	21,522千円	決算額	94,261千円
	不用額	8,220千円	繰越額	19,210千円	備考	
	職員	平野勝、水落辰美、石原正敏、矢口ヨネ子、菅沼亘、太田喜重、笠井洋祐、阿部敬、(嘱託)宮内信雄、(補助員)上野洋子・角山誠一・斎藤浩俊・富澤孝之・阿部美記子・片島智美・涌井美保子				
	出来事	国宝出土地・笹山遺跡の学術調査事業が始まる、自然災害による指定文化財の被害が相次ぐ				
平成24年度 (2012)	当初予算額	113,039千円	補正額	43,120千円	決算額	128,870千円
	不用額	13,899千円	繰越額	39,950千円	備考	
	職員	平野勝、水落辰美、石原正敏、矢口ヨネ子、菅沼亘、太田喜重、笠井洋祐、阿部敬、(嘱託)宮内信雄、(補助員)上野洋子・角山誠一・富澤孝之・阿部美記子・涌井美保子				
	出来事	国宝出土地・笹山遺跡の学術調査、神宮寺茅屋根災害復旧工事				
平成25年度 (2013)	当初予算額	117,021千円	補正額	20,212千円	決算額	120,215千円
	不用額	8,137千円	繰越額	43,130千円	備考	
	職員	佐野芳隆、佐野誠市、石原正敏、矢口ヨネ子、菅沼亘、太田喜重、大滝孝子、笠井洋祐、阿部敬、田村典子、(嘱託)宮内信雄、(臨時)阿部智美・大淵麻美・角山誠一・田村薫・涌井美保子、(補助員)阿部美記子・上野洋子・佐藤実千代・富澤孝之・樋口信一・高橋真弓・水落よね子・富井香織				
	出来事	国宝出土地・笹山遺跡の学術調査、神宮寺茅屋根災害復旧工事、『歴史資料目録11』刊行				
平成26年度 (2014)	当初予算額	74,928千円	補正額	45,148千円	決算額	107,440千円
	不用額	13,666千円	繰越額	42,100千円	備考	
	職員	佐野芳隆、佐野誠市、石原正敏、矢口ヨネ子、菅沼亘、太田喜重、大滝孝子、笠井洋祐、阿部敬、田村典子、(嘱託)宮内信雄、(臨時)中山未沙樹・阿部智美・阿部美記子・角山誠一・田村薫・引間佳子・涌井美保子、(補助員)阿部由美子・上野洋子・佐藤実千代・高橋真弓・富澤孝之・樋口信一・樋熊恵美子・真霜達夫・水落よね子				
	出来事	中島遺跡出土品の市文化財指定、『歴史資料目録12』刊行、博物館開館・友の会設立35周年				
平成27年度 (2015)	当初予算額	95,185千円	補正額	56,969千円	決算額	124,135千円
	不用額	4,946千円	繰越額	23,073千円	備考	
	職員	佐野誠市、石原正敏、矢口ヨネ子、菅沼亘、村山歩、南雲勝巳、大滝孝子、笠井洋祐、阿部敬、田村典子、(嘱託)宮内信雄、(臨時)中山未沙樹・角山誠一・阿部美記子(～6/30)・阿部智美(7/1～)・瀧沢亜矢羽・近春奈(7/1～9/26)・田村薫・引間佳子、(補助員)上野洋子・富澤孝之・樋口信一・水落よね子				
	出来事	樽沢開田遺跡出土品の市文化財指定、十日町市歴史文化基本構想策定に着手、国宝・火焰型土器の大型写真看板作製、新博物館基本計画検討委員会開催				
平成28年度 (2016)	当初予算額	89,759千円	補正額	△9,124千円	決算額	59,795千円
	不用額	9,454千円	繰越額	11,386千円	備考	
	職員	佐野誠市、石原正敏、菅沼亘、村山歩、笠井洋祐、南雲勝巳、大滝孝子、阿部敬、黒田朋美、田村典子、(嘱託)佐野芳隆・宮内信雄、(臨時)中山未沙樹・角山誠一・瀧沢亜矢羽・田村薫・引間佳子・高橋真弓、(補助員)上野洋子・富澤孝之・樋口信一・水落よね子				
	出来事	国宝・笹山遺跡深鉢形土器の3次元計測、十日町市歴史文化基本構想策定協議会を開催、新博物館の基本設計・実施設計				
平成29年度 (2017)	当初予算額	75,493千円	補正額	1,162千円	決算額	65,155千円
	不用額	2,900千円	繰越額	8,600千円	備考	
	職員	佐野誠市、石原正敏、山田和志、菅沼亘、村山歩、笠井洋祐、大滝孝子、阿部敬、黒田朋美、若月辰則、田村典子、(嘱託)佐野芳隆・田村薫、(臨時)引間佳子・春川奈嘉子・宮沢早記、(補助員)上野洋子・富澤孝之・樋口信一・角山誠一・水落よね子				
	出来事	田沢遺跡出土品の市文化財指定、十日町市歴史文化基本構想策定協議会を開催、『十日町市歴史文化基本構想』刊行、新博物館建設工事開始、国宝・火焰型土器の高精細レプリカ製作				

第4表 文化財課の歩み(4) (平成30年度～令和5年度)

年度	予算・人員・出来事など					
平成30年度 (2018)	当初予算額	33,048千円	補正額	8,000千円	決算額	38,153千円
	不用額	1,797千円	繰越額	1,098千円	備考	
	職員	佐野誠市、石原正敏、菅沼亘、村山歩、笠井洋祐、大滝孝子、阿部敬、黒田朋美、若月辰則、田村典子、(嘱託)佐野芳隆・田村薫、(臨時)引間佳子・春川奈嘉子・宮沢早記・生越友子、(補助員)上野洋子・富澤孝之・樋口信一・角山誠一・水落よね子				
	出来事	新博物館建設工事、松茸神社本殿屋根茅葺替工事、国宝・火焰型土器のバリ日本文化会館への出陳				
令和元年度 (2019)	当初予算額	32,077千円	補正額	27,390千円	決算額	52,138千円
	不用額	7,329千円	繰越額	0千円	備考	
	職員	佐野誠市、石原正敏、笛田晃、菅沼亘、村山歩、大滝孝子、高橋由美子、笠井洋祐、阿部敬、黒田朋美、若月辰則、田村典子、(嘱託)田村薫、(臨時)引間佳子・春川奈嘉子・宮沢早記、(補助員)上野洋子・富澤孝之・樋口信一・角山誠一・水落よね子				
	出来事	生きた歴史体験プログラム事業に着手、本ノ木・田沢遺跡群が国史跡指定、松平神社本殿屋根茅葺替工事完了、博物館開館・友の会設立40周年、国宝指定20周年記念シンポジウム開催、新博物館建設工事完了、旧博物館休館および新博物館へ事務室移転、国宝および重文資料の移動開始、野首遺跡出土品の県文化財指定				
令和2年度 (2020)	当初予算額	23,464千円	補正額	△670千円	決算額	20,754千円
	不用額	2,040千円	繰越額	0千円	備考	
	職員	佐野誠市、石原正敏、笛田晃、菅沼亘、村山歩(～7/12)、高橋由美子、笠井洋祐、阿部敬、興野裕貴子、黒田朋美、若月辰則、田村典子、(会計年度任用)田村薫、引間佳子・春川奈嘉子・山田まり・宮沢早記、(補助員)上野洋子・富澤孝之・樋口信一・角山誠一・水落よね子				
	出来事	田沢・壬遺跡保存活用計画策定に着手、『野首遺跡発掘調査報告書Ⅲ』刊行、新博物館オープン(6.1)、国宝・火焰型土器を含む特殊切手「国宝シリーズ第1集(考古資料)」販売、生きた歴史体験プログラム事業を実施				
令和3年度 (2021)	当初予算額	19,563千円	補正額	5,288千円	決算額	24,075千円
	不用額	776千円	繰越額	0千円	備考	
	職員	石原正敏、菅沼亘、笛田晃、高橋由美子、相崎文幸、笠井洋祐、阿部敬、興野裕貴子、黒田朋美、本柳美紀、田村典子、(会計年度任用)田村薫、春川奈嘉子、引間佳子(～6/30)・山田まり(7/1～)・宮沢早記(7/1～)、(補助員)上野洋子・水落よね子				
	出来事	田沢・壬遺跡保存活用計画策定委員会開催、『田沢・壬遺跡保存活用計画』刊行、縄文体験観光プログラム事業(生きた歴史体験プログラム事業の事業名を変更)を実施、博物館収蔵資料デジタルアーカイブ化事業などを実施				
令和4年度 (2022)	当初予算額	63,503千円	補正額	△3,193千円	決算額	56,347千円
	不用額	2,345千円	繰越額	2,000千円	備考	
	職員	石原正敏、菅沼亘、笛田晃、高橋由美子、相崎文幸、笠井洋祐、阿部敬、興野裕貴子、本柳美紀、田村典子、(会計年度任用)田村薫・春川奈嘉子・山田まり・池田好恵・村山亜樹、(補助員)上野洋子・水落よね子				
	出来事	縄文体験観光プログラム事業を実施、十日町市文化財保存活用地域計画策定に着手、柳染色加工所うけつ染め見本裂データベース公開開始、博物館収蔵資料デジタルアーカイブ化事業などを実施				
令和5年度 (2023)	当初予算額	18,508千円	補正額	●千円	決算額	●千円
	不用額	●千円	繰越額	0千円	備考	
	職員	菅沼亘、笠井洋祐、村山歩、高橋由美子、相崎文幸、阿部敬、石原正敏、湯澤孝子、本柳美紀、滋野結希、(会計年度任用)田村薫・春川奈嘉子・山田まり・池田好恵・村山亜樹、(補助員)上野洋子・水落よね子				
	出来事	縄文体験観光プログラム事業を実施、十日町市文化財保存活用地域計画策定協議会を開催、博物館収蔵資料デジタルアーカイブ化事業などを実施				

※出来事には博物館事業を一部含む

第5表 発掘調査一覧(1) (旧十日町市・平成17年～ 新十日町市)

調査年度	発掘	試掘	遺 跡 名
昭和34(1959)	1		小坂遺跡(1次)
昭和35(1960)	1		小坂遺跡(2次)
昭和45(1970)	1		牛ヶ首遺跡
昭和48(1973)	2		城之古遺跡(1次、県教委)、川治百塚第6号塚(県教委)
昭和49(1974)	2	9	馬場上遺跡(1・2次)
昭和50(1975)	3	20	馬場上遺跡(3・4次)、北原八幡遺跡(県教委)
昭和51(1976)	1		つつじ原B遺跡(1次)
昭和55(1980)	3		坪野館跡、馬場上遺跡(5次)、笹山遺跡(1次)
昭和56(1981)	2		池之端遺跡、笹山遺跡(2次)
昭和57(1982)	7		笹山遺跡(3～5次)、笹山塚群、カタガリ遺跡、カタガリ城跡、小坂遺跡(3次)
昭和58(1983)	4	2	赤羽根遺跡(1・2次)、馬場館跡(1次)、馬場神社遺跡
昭和59(1984)	6	4	馬場上遺跡(6次)、江崎遺跡、笹山遺跡(6次)、馬場館跡(2次)、赤羽根遺跡(3次)、柳木田遺跡(1次)
昭和60(1985)	6	3	柳木田遺跡(2次)、川治上原A遺跡、川治上原B遺跡、笹山遺跡(7次)、水穴遺跡(1次)、南谷内館跡(1次)
昭和61(1986)	2	2	栗ノ木田遺跡、南谷内館跡(2次)
昭和62(1987)	3	5	伊達八幡館跡、寺大門北遺跡、寺大門南遺跡
昭和63(1988)	4	10	河原田遺跡(1次)、社畑遺跡、貉原遺跡、朴ノ木清水B遺跡
平成元(1989)	8	17	朴ノ木清水A遺跡、つつじ原A遺跡、つつじ原B遺跡(2次)、大清水遺跡、中段遺跡、天池A遺跡、天池B遺跡、野首遺跡(1次)
平成2(1990)	4	11	鍬坂二ツ塚、狐塚遺跡、水沢館跡(1次)
平成3(1991)	6	20	横割遺跡、大新田遺跡、牛塚遺跡、椿池遺跡、河原田遺跡(2次)、牧脇遺跡
平成4(1992)	7	12	道下遺跡、宮ノ上A遺跡、宮ノ上B遺跡、水穴遺跡(2次)、延命寺遺跡、大井久保遺跡、ぼんのう遺跡(1次)
平成5(1993)	7	9	高島南原A遺跡、高島南原B遺跡、カウカ平A遺跡、カウカ平B遺跡、ぼんのう遺跡(2次)、珠川A遺跡(1次)、珠川B遺跡
平成6(1994)	6	10	珠川A遺跡(2次)、大沢遺跡、上塚原B遺跡、中道遺跡、思川遺跡、城之古遺跡(2次)
平成7(1995)	8	7	城之古遺跡(3次)、上梨子A遺跡、上梨子B遺跡、ぼんのう南遺跡、上組A遺跡、上組B遺跡、戸屋遺跡(1次)、野首遺跡(2次)
平成8(1996)	12	9	野首遺跡(3次)、戸屋遺跡(2次)、岡山遺跡、アミダ屋敷A遺跡、谷内田遺跡、島A遺跡、島B遺跡、白井田A遺跡、白井田B遺跡、なんぜん萱場遺跡(1次)、やせ舟(1・2次)
平成9(1997)	10	2	やせ舟遺跡(3次)、春山遺跡、寿久保遺跡、十二沖A遺跡、十二沖B遺跡、中曽根A遺跡、原田A遺跡、原田B遺跡、つつじ原C遺跡、なんぜん萱場遺跡(2次)
平成10(1998)	3	11	谷地A遺跡(1次)、中新田B遺跡(1次)、廿日城東遺跡(1次)
平成11(1999)	6	4	谷地A遺跡(2次)、中新田A遺跡、中新田B遺跡(2次)、廿日城東遺跡(2次)、下梨子遺跡(1次)、泥木遺跡
平成12(2000)	5	6	道端A遺跡、道端B遺跡、道下南遺跡、馬場上遺跡(7次)、上塚原A遺跡
平成13(2001)	3	4	狐城跡(1次)、水沢館跡(2次)、桃山遺跡
平成14(2002)	4	10	水沢館跡(3次)、狐城跡(2次)、宮栗北遺跡、馬場上遺跡(8次)
平成15(2003)	4	3	江道A遺跡、大道下遺跡、狐城跡(3次)、中林I遺跡
平成16(2004)	3	5	江道B遺跡、江道C遺跡、下梨子遺跡(2次)
平成17(2005)	4	10	会所前A遺跡(2次)、上ノ山開墾地遺跡(1次)、上ノ山遺跡
平成18(2006)	2	8	上ノ山開墾地遺跡(2次)、尾崎館跡
平成19(2007)	4	14	梶花遺跡、貝野久保遺跡、真萩田遺跡
平成20(2008)	6	16	貝野大道下遺跡、真萩田遺跡(2次)、上屋敷遺跡(1次)
平成21(2009)	9	14	樽沢開田遺跡、貝野沖遺跡、上屋敷遺跡(2次)、溝遺跡、久保寺遺跡、道下南遺跡、田沢中道遺跡、坪野館跡、田沢遺跡(2次)
平成22(2010)	5	17	清津宮峯遺跡、貝野沢田遺跡(1次)、干溝東遺跡(1次)、橋詰居村遺跡、田沢遺跡(3次)
平成23(2011)	7	11	干溝東遺跡(2次)、小原遺跡、白羽毛遺跡、下原田A遺跡、下原田B遺跡、貝野沢田遺跡(2次)、笹山遺跡(8次)、田沢遺跡(4次)
平成24(2012)	6	15	小原遺跡(2次)、会所前A遺跡(3次)、おざか清水遺跡(2次)、貝野沢田遺跡(3次)、橋詰居村遺跡、笹山遺跡(9次)、田沢遺跡(5次)
平成25(2013)	6	14	おざか清水遺跡(3次)、橋詰居村遺跡(2次)、天尾山城跡、貝野沢田遺跡(4次)、原遺跡(1次)、笹山遺跡(10次)、田沢遺跡(6次)

第6表 発掘調査一覧(2) (新十日町市)

調査年度	発掘	試掘	遺 跡 名
平成26(2014)	5	14	橋詰居村遺跡(3次)、貝野沢田遺跡(5次)、原遺跡(2次)、貝野沖遺跡(2次)、田沢遺跡(7次)
平成27(2015)	5	13	貝野沖遺跡(3次)、一里塚遺跡、山谷城跡、馬場上遺跡、田沢遺跡(8次)
平成28(2016)	1	15	馬場上遺跡
平成29(2017)	1	15	馬場上遺跡
平成30(2018)	1	11	林中遺跡
令和元(2019)	4	15	林中遺跡、林中西遺跡、芋島小原遺跡、枅形遺跡(1次)
令和2(2020)		7	蟹沢遺跡
令和3(2021)	1	3	枅形遺跡(2次)、姿上山遺跡
令和4(2022)	2	7	木落大原遺跡、木落大原南遺跡、山谷諏訪越遺跡
令和5(2022)		15	塩辛遺跡、馬場上遺跡、下原田A遺跡、木落大原北遺跡、枅形遺跡(3次)
小 計	213	419	

第7表 発掘調査一覧(3) (上段:旧中里村、下段:旧松代町)

調査年度	発掘	試掘	遺 跡 名
昭和34(1959)	1		泉竜寺遺跡
昭和40(1965)	1		中林遺跡(東北大学)
昭和43(1968)	1		田沢遺跡(東北大学)
昭和48(1973)	1		森上遺跡
昭和54(1979)	1		壬遺跡(1次、國學院大學)
昭和55(1980)	1		壬遺跡(2次、國學院大學)
昭和56(1981)	1		壬遺跡(3次、國學院大學)
昭和57(1982)	1		壬遺跡(4次、國學院大學)
昭和60(1985)	1	1	鷹之巢遺跡
昭和61(1986)	1		壬遺跡(5次、國學院大學)
昭和63(1988)	1		布場遺跡(1次)
平成元(1989)	1		通り山遺跡
平成2(1990)	1	2	一里塚遺跡
平成3(1991)	2	1	壬遺跡(6次)、干溝遺跡
平成4(1992)	2	1	小丸山遺跡、おざか清水遺跡
平成5(1993)	1		御屋敷遺跡
平成8(1996)		2	桂遺跡
平成9(1997)		7	
平成10(1998)		2	
平成11(1999)	1	2	久保寺南遺跡
平成12(2000)	1	4	家ノ上遺跡
平成13(2001)	4	7	貝野遺跡、中島遺跡(1次)、内後遺跡(1次)、布場遺跡(2次)
平成14(2002)	8	5	内後遺跡(2次)、中島遺跡(2次)、中田B遺跡、中田D遺跡、堂ノ上遺跡(1次)、宮中家ノ中遺跡、原屋敷遺跡、会所前遺跡
平成15(2003)	3	6	土橋遺跡、内後遺跡(3次)、堂ノ上遺跡(2次)
平成16(2004)	2	4	会所前A遺跡(1次)、干溝南遺跡
小 計	37	44	

調査年度	発掘	試掘	遺 跡 名
平成9(1997)	1		向原Ⅱ遺跡(確認)
平成10(1998)	1		向原Ⅱ遺跡(1次)
平成11(1999)	1		向原Ⅱ遺跡(2次)
小 計	3		

第8表 これまでに開催された企画展・特別展(移動展・巡回展を含む)(1)

年 度	特別展・企画展等の名称(期間)
昭和54(1979)	「越後のちぢみ展」(4/27～5/20)、「木の文化展」(8/4～31)、「星裏一遺作展」(10/12～14)、「菊と刀展」(10/27～11/4)、「雪の民具展」(2/7～29)
昭和55(1980)	「明石ちぢみ展」(5/1～6/8)、「新潟県の画家たち展」(8/9～17)、「庚申さまと庚申信仰展」(10/26～11/9)、「雪と雪の民具展」(2/13～22)
昭和56(1981)	「越後ちぢみと明石ちぢみ展」(5/3～6/7)、「日本の郷土玩具展」(11/1～8)
昭和57(1982)	「妻有の画人たち展」(8/25～29)、「妻有の文化財展」(10/30～11/7)
昭和58(1983)	「妻有の衣食住展」(8/10～31)、「近代日本洋画の巨匠たち展」(11/1～6)
昭和59(1984)	「日本画、洋画、巨匠たちの世界展」(9/1～5)、「明治、大正、昭和100枚の写真展」(10/20～11/4)、「目で見ると十日町の歴史展」(11/11・中条公民館新座分館、2/8～17・下条公民館)
昭和60(1985)	「広重・東海道五十三次展」(9/1～5)、「全日写真写真展」(10/3～6)、「戦中・戦後のくらし展」(11/22～12/8)、「雪の造形写真展」(11/3・中条公民館大井田分館)
昭和61(1986)	「重文・越後縮資料展」(4/10～7/20)、「世界の大昆虫展」(8/26～9/7)、「女性をえがく展」(10/8～12)、「明治・大正・昭和写真展」(11/2～3・水沢公民館)
昭和62(1987)	「大正浪漫明石ちぢみの世界展」(4/9～5/17)、「信濃川の魚と漁法展」(8/23～27)、「妻有の画人たち展Ⅱ」(10/17～25)、「雪の中のくらし写真展」(2/12～14)、「小坂遺跡と縄文人のくらし」(10/25・吉田公民館鑑島分館)
昭和63(1988)	「冬の生活用具展」(4/30～5/29)、「デザイン亀倉雄策展」(8/21～28)、「市史編さん資料展」(10/8～16)、「越後縮名品展」(2/10～12)、「昔のくらし写真展」(10/23・吉田公民館名ヶ山分館)、「水沢地域の城と館と遺跡展」(11/3～6・水沢公民館他)
平成元(1989)	博物館開館・友の会設立10周年記念「池田満寿夫展」(10/21～29)、「妻有の百三十三番写真展」(11/5～12・水沢公民館他)
平成2(1990)	「妻有の職人と道具展」(4/28～5/20)、「近世妻有俳諧と系譜展」(8/11～9/2)、「雪の造形と文様展」(10/13～21)、「幅上遺跡速報展」(11/3・吉田公民館鑑島分館)
平成3(1991)	「十日町の積雪期用具展」(8/11～9/1、2/8～16)、「大新田遺跡の調査記録」(10/27・鑑島小学校)
平成4(1992)	「積雪期用具展」(4/25～5/31)、「竹久夢二展」(10/10～26)
平成5(1993)	「星裏一とスノリア展」(6/5～20)、「浮世絵名品展—中右コレクション」(10/9～25)、「カウカ平A・B遺跡・高島南原A・B遺跡調査記録」(10/31・鑑島小学校)
平成6(1994)	開館・友の会設立15周年／市政施行40周年記念「棟方志功展」(10/8～23)、「高橋喜平・雪の造形写真展」(2/16～20)、「中道・思川遺跡の調査」(10/30・真田小学校他)
平成7(1995)	「手工芸の美—編・組・刺繍三人展」(6/17～7/2)、「富士の写真家・岡田紅陽生誕100年記念展」(10/7～22)、「上梨子A・B遺跡調査」(11/5・西小学校)
平成8(1996)	「発掘調査速報展—平成3～7年度分」(6/15～30)、「縄文の美—火焰土器の系譜」(9/28～10/27)
平成9(1997)	「十日町の文化財展」(5/17～6/8)、「中条地区の遺跡調査」(10/25～26・中条小学校)
平成10(1998)	「インド先住民族アート展」(ミティラー美術館共催・4/17～5/5)、「妻有のいしぶみ展」(10/6～11/15)、「第50回雪まつり記念「高橋喜平写真展—雪花譜」(2/19～21)
平成11(1999)	笹山遺跡出土品国宝指定記念「縄文の美パートⅡ—火焰型土器の世界」(8/21～10/10)
平成12(2000)	「縄文の祭祀」(9/22～10/22)、「くらしの美 思い出の品々」(2/16～18)、「笹山遺跡とその出土品展」(6/3～4)
平成13(2001)	「民具からみた縄文の用具1—編・織用具と装身具—」(6/2～24)、「民具からみた縄文の用具2—食料調達と食事の用具—」(9/22～10/14)、「博物館収蔵資料展—越後縮を中心として—」(2/15～17)、「野首遺跡展」(11/4・下条公民館上新田分館)
平成14(2002)	「現代アートに挑戦するインド民族アートの世界展」(ミティラー美術館共催・4/26～5/19)、「きものでつづる十日町の歩み」(6/15～30)、「雪文化三館提携10周年記念「北越雪譜と魚沼の風土」(10/26～11/10)、「博物館収蔵資料展—十日町のきものから—」(2/14～16)
平成15(2003)	全国大井田氏サミット10周年記念「大井田健一 父祖の地を描く」(5/17～6/8)、「大地の芸術祭協賛「大地の息吹き—十日町の火焰型土器—」(7/20～9/7)、「きもの歴史館開館記念「越後縮の文様と美」(10/4～28)、「収蔵資料展—暮らしを彩る着物と品々—」(2/20～22)
平成16(2004)	国宝指定5周年記念「国宝と地域の宝物—十日町の火焰型土器Ⅱ—」(6/1～30)、「博物館と友の会の四半世紀」(7/10～25)、「市制施行50周年記念「十日町市50年の歩みと暮らし」(9/29～11/3)、「火焰街道博学連携プロジェクト「子ども縄文研究展」(11/21～12/25)

第9表 これまでに開催された企画展・特別展(移動展・巡回展を含む)(2)

年 度	特別展・企画展等の名称(期間)
平成17(2005)	「女性の着物と装いー髪飾り・櫛と簪と筭とー」(6/11～7/3)、「博物館収蔵資料展ー生活用具を中心にー」(8/9～21)、「カストリ雑誌・戦後出版文化の一断面ー西潟浩平コレクションー」(8/9～21)、「新・十日町市の宝物ー地域に息づく文化財ー」(10/8～11/6)、「子ども縄文研究展」(11/20～12/4)
平成18(2006)	「越後の布ー暮らしの中の着物ー」(7/22～9/10)、「梵字・曼荼羅展」(10/7～22)、「子ども縄文研究展」(11/23～12/6)、「博物館収蔵資料展ーきものと資料と孔版画ー」(2/16～18)
平成19(2007)	「十日町のやきものー縄文時代草創期、火焰型土器、そして妻有焼へー」(8/25～9/24)、「残された雪国の記憶ー雪国の暮らしを写すー」(10/6～11/4)、「出土品が語る新潟の歴史」(財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団共催・11/10～12/9)、「子ども縄文研究展」(12/22～1/14)、「博物館収蔵資料展ー軸物を中心にー」(2/16～18)
平成20(2008)	「十日町市の中世遺跡ー発掘された集落・居館ー」(8/12～9/15)、「岡田紅陽富士写真展」(10/11～26)、「博物館に寄託・寄贈された考古資料」(11/8～24)、「子ども縄文研究展」(12/20～1/12)、「博物館収蔵資料展ー着物を中心にー」(2/20～22)、「雪文化三館提携事業「雪と人が織りなす文化」(9/13～15・長岡市中央図書館)
平成21(2009)	博物館開館・友の会設立30周年記念「縄文人の道具箱 野首遺跡展」(8/1～9/13)
平成22(2010)	「壊されるモノー土偶・石棒・石皿からみた縄文の祭祀ー」(7/31～9/5)、「信濃川上・中流域の縄文時代草創期遺跡」(11/2～28)
平成23(2011)	「縄文のKAZARIー顔を飾る縄文人ー」(7/30～9/11)、「十日町市内遺跡発掘調査速報展」(11/26～3/25)
平成24(2012)	「四大麻布ー越後縮・奈良晒・高宮布・越中布の糸と織りー」(7/21～8/19)、「異形の縄文土器」(9/22～11/4)、「昭和の残映ー博物館に寄贈された昔の資料ー」(2/2～3/3)、「縄文の華 十日町市の国宝・火焰型土器展」(8/3～9/30・星と森の詩美術館)
平成25(2013)	「箱の中の虫ー昆虫博士・樋熊清治氏標本コレクションー」(7/20～8/25)、「ビジュアル縄文博物館ー縄文人の衣食住、そして土器ー」(9/21～11/10)、「子ども縄文研究展2013」(1/18～2/16)
平成26(2014)	博物館開館・友の会設立35周年記念「松代の石仏ー里山の祈りと信仰ー」(7/19～8/24)、「縄文前期のミラ 赤羽根遺跡ー火焰型土器の出現前夜ー」(9/27～11/9)、「子ども縄文研究展2014」(1/17～2/15)
平成27(2015)	「カストリ雑誌とその時代ー西潟浩平氏コレクションー」(7/25～8/30)、「縄文後期の墓 栗ノ木田遺跡ー縄文人の死と弔いー」(10/3～11/8)、「子ども縄文研究展2015」(1/16～2/21)
平成28(2016)	「館蔵資料展 市民からの贈り物」(7/30～8/28)、「土器づくりの考古学」(10/1～11/6)、「子ども縄文研究展2016」(1/14～2/19)
平成29(2017)	「野首遺跡出土品のすべて」(7/8～8/27)、新潟県埋蔵文化財センター巡回展「縄文の造形美ー六反田南遺跡ー」(7/8～8/27)、「動物の意匠ー人と生き物のかかわりー」(9/30～11/5)、「雪文化三館提携25周年記念展「雪と生活」(9/14～11/20)、「子ども縄文研究展2017」(1/20～2/18)、「十日町のきもの歴史展」(5/3～4・十じろう)、「野首遺跡出土品展」(11/5・下条中学校)
平成30(2018)	「十日町のきもの歴史展」(5/8～27)、「縄文土器繚乱ー十日町市の土器いろいろー」(7/28～8/26)、「機織りのミラ 馬場上遺跡」(9/29～11/4)、「子ども縄文研究展2018」(1/4～2/17)、「十日町のきもの歴史展」(5/3・十じろう)
令和元(2019)	「十日町のきもの歴史展」(5/8～26)、博物館開館・友の会設立40周年記念「博物館と友の会 40年の歩み」(7/27～9/16)、「十日町のきもの歴史展」(5/3・十じろう)
令和2(2020)	新館オープン記念夏季企画展「国宝・笹山遺跡出土深鉢形土器のすべて」(6/1～8/23)、新館オープン記念秋季特別展「縄文の遺産ー雪降る縄文と星降る縄文ー」(9/26～11/8)、特設展示「昔の道具」(12/19～1/24)、冬季企画展「マジョリカお召と黒絵羽織」(2/13～3/28)
令和3(2021)	新館オープン1周年記念夏季特別展「形をうつすー文化財資料の新たな活用ー」(6/1～7/4)、夏季企画展「器の移り変わりー縄文から現代までー」(7/27～8/29)、新館オープン1周年記念秋季特別展「岡本太郎が見て、撮った縄文」(10/2～11/14)、特設展示「昔の道具」(1/4～2/6)、冬季企画展「明石ちぢみと十日町小唄」(2/19～3/27)
令和4(2022)	春季企画展「市民からの贈り物」(4/29～6/5)、夏季企画展①「里山の石仏ー松之山の祈りと信仰ー」(7/23～8/28)、夏季企画展②雪文化三館30周年記念特別展「モノと芸術とヒトが織りなす雪国文化」(9/6～9/25)、本ノ木・田沢遺跡群国史跡指定3周年記念秋季特別展「縄文時代の始まりを探る」(10/1～11/13)、特設展示「昔の道具」(1/4～1/29)、冬季企画展「雪国の食べものがたり」(2/18～3/26)
令和5(2023)	夏季企画展「縄文の宝石ーヒスイー」(7/22～8/27)、秋季特別展「笑う縄文人ー縄文人の喜怒哀楽ー」(9/30～11/12)、特設展示「昔の道具」(1/4～1/28)、冬季企画展「究極の雪国 建ものがたり」(2/17～3/24)